

令和6年度第2回滋賀県観光事業審議会 議事概要

1 開催日時、場所

日 時：令和7年3月5日（水）15:30～17:00

場 所：滋賀県庁危機管理センター1階会議室1

2 出席委員（敬称略、五十音順）

委 員：磯部 修、稲永 明子、上田 未来、植西 祐一郎、川口 洋美、
古賀 裕介、竹平 陽、野村 ゆき子、廣岡 裕一、峯俊 智穂
オブザーバー：江川 寛、河原 正明（代理出席）、木村 敦（代理出席）

3 議題等

■ 上田観光振興局長挨拶

■ 定足数の確認

■ 議題（1）令和7年度観光施策の基本方針

事務局より、令和7年度観光施策の基本方針について説明。

■ 議題（2）大型イベント等を契機とした観光誘客の展開

事務局より、大型イベント等を契機とした観光誘客の展開について説明。

（廣岡委員）

資料1の観光DXの強化について、どのようなことをするのがよく見えなかった。資料2に訪日ウェブサイトのリニューアルやECサイトに特設ページを作成する等、DXに関連する記載があったが、それらはどう関連しているのか。資料からは単独で予算が組まれていないように思えるが、予算についても教えてほしい。

（北川係長）

観光DXの強化に係る取組としては大きく2つ考えている。1つは観光データマネジメントプラットフォームの構築であり、観光事業者などに観光の動向をリアルタイムで見ただけのようなシステムをびわこビジターズビューローのサイトの中に作りたい。もう1つは観光DX人材の育成であり、市町や観光協会の職員向けに研修等を実施し、DX人材の育成を行う。観光DMPの構築に1264万6000円、観光DX人材の育成に1000万円の

予算を要求している。

(廣岡委員)

観光D Xの強化に係る事業と資料2に記載の事業は連動させないということか。

(北川係長)

直接関連するものではないが、それぞれの取組を含めて大きく観光D Xの強化としている。

■ 議題(3)「だれでも、いつでも、どこでも」ビワイチを楽しめる環境整備

事務局より、「だれでも、いつでも、どこでも」ビワイチを楽しめる環境整備について説明。

(稲永委員)

休憩スポットをアプリでお知らせするのは非常に良いアイデアだと思う。一方、ビワイチサイクリングナビ(アプリ)の利用者に女性が少ないのは課題だと感じた。また、「だれでも、いつでも、どこでも」ビワイチを楽しめる環境整備を進めるのであれば、サイクルトレインも念頭に入れていただけたらと思う。

(菱田ビワイチ推進室長)

ビワイチサイクリングナビ(アプリ)に女性の利用者が少ないのは課題であり、女性に受けそうなビワイチサイクリングマイレージのテーマや地点ポイントを考えるなどしている。引き続き様々な方が楽しめる内容になるよう工夫していきたい。また、サイクルトレインについては令和2年、3年に実証実験をしたが、それ以降近江鉄道などでは展開があったものの、JRについては動きがないため、我々としても進めていければと思っている。

(古賀委員)

サイクルトレインについては、前回の実証実験の時の状況も見ながら考えてまいりたい。駅の体制整備など多くのハードルがあり、実施することと利用の数を結びつけるのがなかなか難しい。駅からサイクリングを始めていただくことなどについては今後も連携させていただければと思うが、サイクルトレインについては今いただいた意見も踏まえながら検討していきたい。

(竹平委員)

万博等を契機としたビワイチ体験促進事業について、万博の滋賀県のブースにおいてビ

ワイチをアピールするという意味ではなく、万博に来た方をパンフレットなどで誘客するという認識でよいのか。

（菱田ビワイチ推進室長）

気軽なモデルプランについては第1四半期を目標に早急に作成し、万博を機に日本に来ようとしている人、万博に来た人をターゲットにして、情報発信ができるよう取り組んでいきたい。できるだけ気軽に来てもらえるよう、日帰りや半日で楽しめるモデルプランの作成と発信を検討してまいりたい。

（竹平委員）

モデルプランの作成により、万博に来られた方にもビワイチのことを知っていただく取組と受け取ってよいのか。

（菱田ビワイチ推進室長）

そのように受け取っていただいてよい。

（上田委員）

「だれでも、いつでも、どこでも」がテーマであれば、サイクリングは体力的に厳しい人もいるため、サイクリングにこだわらなくてもよいのではと思う。歩くことで見えてくることもあり、お年寄りでもお子さんでも楽しめる。1周を分割して何度も来て楽しんでいただくこともできる。今後はサイクリングだけではなく、歩きやランニングでも琵琶湖を1周し、滋賀県の観光や環境を楽しめると発信していただきたい。

（菱田ビワイチ推進室長）

令和4年にビワイチ推進条例ができた際に、自転車で琵琶湖を1周する、あるいは湖岸に限らず内陸部の観光地などを自転車で周遊することをビワイチと定義付け、サイクリングによる観光振興を進めている。ただ、歩いて観光することも健康に良く大切なことであるため、貴重な意見として賜りたい。

（河崎シガリズム推進室長）

現在、2,700円で2日間JR等が乗り放題になる鉄道版ビワイチパスを販売している。観光振興局としては、歩きや電車、EV自動車など様々な形でビワイチを展開しながら、滋賀県が誇る琵琶湖を題材とした誘客に取り組んでまいりたい。

（野村委員）

「シガパーク」は公園を指し、「THE シガパーク」はポータルサイトを指すのか。

(菱田ビワイチ推進室長)

本資料では使い分けていない。滋賀県内の様々な公園を一体的に活用し盛り上げる取組を「THE シガパーク」としており、「シガパーク」も同様にご理解いただきたい。

■ 議題（４）ここ滋賀の拠点機能の最大化

事務局より、ここ滋賀の拠点機能の最大化について説明。

(峯俊委員)

ここ滋賀を活用した関係人口づくりで就職相談とあったが、例えば滋賀県中小企業家同友会など、どのような主体と連携した取組なのか、県独自の仕掛けがあれば説明してほしい。

(平居副主幹)

来年度はまず可能性の調査を実施したいと思っている。ここ滋賀に1名相談員を配置し、しがI J U相談センターの相談員や東京本部とも連携しながら、徐々に進めていきたい。

(廣岡委員)

北の近江は具体的には高島市および長浜市と考えればよいか。北部への誘客を促進するのは、北部への訪問率が相対的に低いため、かさ上げを狙うということか。

(平居副主幹)

県庁全体で長浜市、高島市、米原市の支援をするという大きなプロジェクトの1つの事業である。3市についてはここ滋賀旅行割の割引額を増やし、さらなる誘客につなげていきたい。

(廣岡委員)

北部地域への訪問率のかさ上げが狙いか。

(平居副主幹)

それも1つの狙いである。

(稲永委員)

滋賀への観光誘客の強化としてここ滋賀店舗限定の旅行クーポンの作成とあるが、旅行会社へのアプローチは観光誘客の強化の取組の中に含まれているのか。

(平居副主幹)

クーポン事業は日本旅行に委託しており、旅行会社には取組のお知らせはしている。

(稲永委員)

旅行会社へのアプローチが最も効果的かと思う。

■ 議題（５）シガリズム観光振興ビジョン第２期アクションプランについて

事務局より、シガリズム観光振興ビジョン第２期アクションプランについて説明。

(川口委員)

トランスフォーマティブトラベルには例えばどのようなものがあり、それがどのように評価されているのか教えていただきたい。また、ほぼ全ての事業者がトランスフォーマティブトラベルの提供を目標にしていると思うが、それほど簡単なことではない。何をすればトランスフォーマティブになるのか、評価指標が非常に難しいと思う。小さな事業者としては、どれだけアップグレードしてそれをどれだけ具体的な商品として結びつけられるかが非常に重要だと思うが、なかなかその境地に至るには長い道のりだと思う。どのようなことに取り組んでいけば、人々の自己変革を促すような体験が提供できるのか教えていただきたい。

(河崎シガリズム推進室長)

トランスフォーマティブトラベルの素材として評価されているものには、例えば滋賀県の日本遺産「琵琶湖とその水辺景観―祈りと暮らしの水遺産―」がある。ただ、これをいかにトランスフォーマティブに高めていくかが難しい。例えばかばたであれば、滋賀県ならではの水を守り続けてきた姿や、そのコンテンツが水を大切にする文化、祈りから来ていることをいかに丁寧に伝えられるかが大切だと考えている。また、近江商人もトランスフォーマティブトラベルの素材の１つに挙げられる。日野や五個荘に中国などから多くの経営者にお越しいただいていると聞く一方で、旅行会社の方からは近江商人の英語のサイトがない、海外の方は学びたいが学べる場所がないということも聞いている。トランスフォーマティブに昇華させるには、かなり丁寧な取組をしないといけない。ご指摘の通り複数年かけてしっかりと取組を進め、人生に新たな価値観を取り込んでいただけるものに仕上げていかなければいけないと考えている。

また、具体的にどのようなことに取り組めばよいかであるが、まさに川口委員が日々インバウンド客に対してご提案されているツアーこそがトランスフォーマティブに昇華できるものと考えている。ご指摘のとおり単純な指標では評価が難しく、逆に言えばこんなことでもトランスフォーマティブになるのか、ということが多々あるかと思う。それを発掘しながら、事業者の皆様と一緒に取り組んでまいりたい。

(川口委員)

トランスフォーマティブトラベルは新しいことをするというよりも、今までやって来たことを一段と丁寧掘り下げていく、自分たちが新たな視点を持ち、新たな角度から深い言葉で滋賀の魅力を伝えていくものと理解した。今後も今までやってきたことに継続して取り組んでいけばよいと感じた。

(稲永委員)

学びもちろん大事だが、滋賀のよいところはシガリズム、時間に追われず自分を見直せるような時間の流れ、「滋賀時間」を身体で感じられることだとも思う。学びだけではなく、そのようなところも考えていただければよいと思う。

(河崎シガリズム推進室長)

トランスフォーマティブトラベルは令和7～9年度の成長期に新たに取り組むこととして挙げている。従来から取り組んでいるシガリズムにも変わらず取り組んでまいりたい。

(野村委員)

トランスフォーマティブトラベルのターゲットはこれまでの誘客のターゲットと異なってくると思うがどうか。

(河崎シガリズム推進室長)

ターゲットとしては大変狭いエリアだと思う。高付加価値でもあるため、幅広いお客様、マスをターゲットにするのではなく、旅行を通じて何か得たいと思っていらっしゃる、ユニークなお客様がターゲットになってくる。

(竹平委員)

先日、徳川家広氏と交流できる178万円の観光コースが6日間売れなかったという記事がヤフーニュースで報じられた。ニッチな層を狙っていることは理解しているが、一方で高付加価値であることは、県民にとっては広く誘客してお金を落としてもらうという発想とは結びつきにくい。見せ方に気をつけていただければと思う。

(峯俊委員)

メタ観光戦略について、地域の観光資源の価値を文化的・歴史的意義だけでなく、「アニメの聖地」や「インスタ映え」など地域の外の方による角度でも捉えていくということだが、逆にその観光資源の周辺に住む地域の方自身は、自分の地域がどのように見られているかを知る機会がなかなかないと思う。いきなり観光客が来て、地域の方が何のことだろうとな

らないかが気がりであるため、地域の方がどう見られているかを受け入れられるような仕掛け、相互に評価するような仕掛けも展開していただければと思う。

(古賀委員)

コンテンツの数、裾野の広さも大事かと思う。成果指標である滋賀らしい体験コンテンツの創出数について、第1期200本、第2期210本とあるが、合計で410本創出するということか。

(河崎シガリズム推進室長)

ご指摘の通り、第1期で200本、第2期で210本、合計で410本の創出を目指す。

(磯部委員)

アクションプランの中に「観光まちづくり」という言葉がある。「まちづくり」は地域住民の最前線で行政をする我々にとって非常に重要な言葉であり、「観光まちづくり」は観光を切り口としたまちづくりという意味と認識している。観光を切り口に人の交流が生まれ、地域の経済が活性化したりすることは、地域住民にとっても暮らしやすさや新しい発見につながる。また、来ていただいた方にとっても、場合によってはまちを好きになってふるさと納税で応援していただくことや、移住までしていただくことにもつながり、ひいては人口減少対策にもつながる。アクションプランの成果指標に県民の滋賀県観光の推奨意向度があるが、まちづくりの視点があることで高まっていくと思う。アクションプランの推進にあたっては、まちづくりの観点を常に頭の中におきながら、我々と一緒に進めていただきたい。

成果指標である観光消費額単価について、令和9年度の目標値が遠慮がちに感じた。最近では物価上昇率が2～3%であり、物価上昇による価格転嫁も生じると思う。物価上昇に合わせた目標設定をしてもよいのではないか。

(北川係長)

物価上昇率を考慮すると少し消極的ではないかという点については、今後、物価上昇がどこまで続くのか不透明であることなどを考慮し、局内でも議論した結果、観光消費額単価の過去の伸び率等を勘案した数値とすることとした。そのようなご意見も一定あると思っている。

(植西委員)

滋賀県内19市町でそれぞれ観光の特性も魅力も違う。観光DXにおいて最も難しいのは、各市町に落とし込んだデータ分析と、それを政策につなげることである。各市町には技術もお金もないため、支援を進めていただきたい。

(江川オブザーバー)

全国旅旅行業協会は 47 都道府県に支部があり、それぞれの知事登録の業者が協会の会員となっている。ぜひ全国旅行業協会や日本旅行業協会を利用いただき、プロモーションのお手伝いができると思う。

(河原オブザーバー代理)

シガリズムアクションプランは滋賀県の皆様による滋賀県の皆様のためのアクションプランであるという印象を持った。特にビワイチについては、滋賀県がサイクリングの聖地なんだという意気込みが感じられる。どうしてもインバウンドは関西では大阪と京都に集中しがちだが、おそらくリピーターが生まれてくると滋賀県にも訪れると思う。一方、顕著である人材不足に対する取組がなければ、結局地域の方々に恩恵が出ないこともある。県の皆様にはこの点も注視しながら取り組んでいただきたい。観光庁の補助事業も数多くあり、使えるものがあればどんどん使ってほしい。気軽に近畿運輸局にお問合せいただければと思う。

(木村オブザーバー代理)

県のシガリズム観光振興ビジョンの策定に合わせ、びわこビジターズビューローでも令和 4 年度から計画期間 3 年の第 3 期中期計画を作成し、事業を展開してきた。今年度末で計画期間が終了となるため、令和 7 年度から新たな中期計画である第 4 期経営戦略の策定に取り組んでおり、来週理事会によって承認をいただくところである。第 4 期経営戦略では地域資源の効率的な魅力発信と高付加価値化、観光人材の育成と DX のさらなる推進、地域連携 DMO としての役割・取組の強化という 3 つの重点テーマを掲げている。シガリズム観光振興ビジョン第 2 期アクションプランと計画期間を合わせて 3 年間の取組としている。引き続き県と連携して観光振興に努めてまいりたい。

■ 上田観光振興局長挨拶

<閉会>